

駅北柚木の 柚木神社

昭和六十二年十二月五日号

富士駅北地区、柚木と浦町の境あたりに、柚木神社があります。近くの旧家、牧田家に伝わる古文書によると、この神社は治安二年（一〇二二年）創建、柚木という地名の由来となった神社だと書かれています。

大きなユズの木

昔々、千年ほど昔、柚木村のあたりが、まだ富士川の河原だったころの話です。

ある年、大水が出て甲州（山梨県）の方から、一本のユズの木が柚木村へ流れてきました。

ユズの木はそこにそのまま根づいて、だんだんに大きくなりました。とうとう、回りが三

抱え、高さは五丈八尺（約十七呎）、枝は五歩四方に広がるまでになりました。その上、この大木の周りには、ユズの木が千本も自然に生えてきて、林になってしまつたそうです。生命力の強いこのユズの木に対して、村の人々は、

「不思議なユズの木だなあ。きつと神様が宿つているに違いない」と、柚木神社を建ててあげていました。

ユズの葉の靈験

そのころ、国中に大地震が起つて死人がたくさん出たり、ひでりが続いて作物がとれ

ず、飢え死にする者が出るほどの飢饉になりました。それを見て柚木村に住んでいた秀安という人が、ユズの葉をとって全国へ配ったところ、たちまち地震はおさまり、雨もザーザー降って、作物がよくとれるようになりました。

お上では、柚木神社に感謝し、祭礼の費用だとして、毎年、秀安に黄金五十枚をくださったという事です。

地名になった柚木神社

鈴木喜作さん(柚木)

近くに住む鈴木喜作さんは、「昔から、ユズの木が枯れると新しく植えて、ユズを絶やさないようにしてきたんじゃないかな。病気になるらないよう、お米がたくさんとれるように

つて、毎年九月九日にお祭りをやっているよ。柚木という地名は、柚木神社からきているんだよ」と話してくれました。

